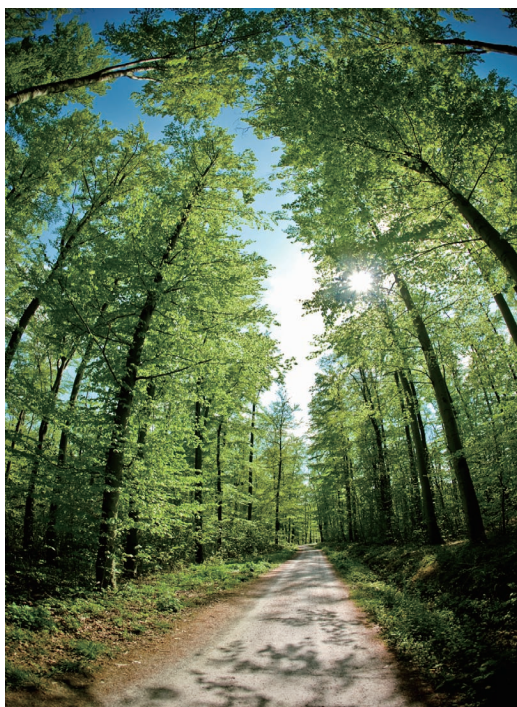


永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021 年 7 月

「天国で」「天の帰化の儀式（II）」「完全な律法」「キャベツと厚揚げのホットサンド」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「天の帰化の儀式 (II)」

4

聖書の教え

朝のマナ

天国で

8

In Heavenly Places

現代の真理

「完全な律法」

40

キリストと律法

力を得るための食事

「キャベツと厚揚げのホットサンド」

46

レシピ

お話コーナー

「さばきの日 (II)」

48

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2021年6月6日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

神がすべての上に立つ総長であられる

様々な働きの分野におけるわたしたちの義務が何であっても、神がすべての上に立つ総長であられることを覚えていなさい。あなたがたは肉を自分の頼みとすることによってこのお方から身を引いてはならない。あなたがたはあまりにも自分たちの間で自らを測り、互いに比較して、自分の働きの重要性を評価する傾向があった。あなたがたの比較は、目標から大きく外れているかもしれないことを思い出すであろうか？

主が評価なさるのは、地位や格ではない。このお方はあなたの働きが、どれくらい主人の精神をいだき、キリストのみかたちを表すかをご覧になっている。もっとも熱心に、そして集中して神のみ声を求めて聞く人は、主を最高に愛し、その人が主を最も愛するように、御父によって最も愛される。「わたしに学びなさい」と、世の知る最も偉大な教師が仰せになる、「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」。

これまでこの祈りが捧げられる必要があった。「ああ、わが最高の友、わが造り主、わが主よ、わたしをあなたの神聖なみかたちへと形作り、かたどってください。まったくあなたのものとしてください。わたしが神のご品性をあらわすことができるように、わたしを精練し、純潔にし、生き返らせてください」。宗教と事業は二つの個別なものではなく、一つである。主に絶対的に信頼するすべての人は、テストされ、試されるであろう。そのとき、神の銘が彼らの上に押されるのである。

わたしたちの前に重要な働きがある。そしてわたしたちは自分自身の心を準備することによって、この働きのための道を準備しなければならない。キリストがわたしたちをご自分のみかたちに変えることがおできになるように、天がわたしたちの心のうちに大事にされ、利己心というごみは排除されなければならない。そしてこの働きはキリストを眺めることによって進められる。わたしたちは栄光から栄光へ、品性から品性へ変えられていく。このお方の力はわたしたちの弱さのうちに完全にされる。

あなたの心から石を取り上げ、ごみを取り除きなさい。世の罪を取り除く神の小羊を眺めなさい。民は…テストされ、試されるであろう。神の僕たちはたえず、一方の手で滅びようとしている魂をつかみ、信仰の手で神の御座をつかむ必要がある。(原稿リリース 21 卷 337-338)

第23課 天の帰化の儀式(Ⅱ)

バプテスマの前に悔い改め

「すると、ペテロが答えた、『悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう』(使徒行伝 2:38)。

悔い改めは、自ら罪を放棄することを要求しています。積極的な放棄により、神から許しが与えられます。罪人は、キリストを通じて許しを得て、神に受け入れられ、そして人はそれらの事実を信じる信仰を働かせます。その罪人の信じていること—自分の罪が許されたこと—を象徴する「行事」が、バプテスマです。

そのため、告白すべき罪がなく、またキリストの福音を信じず、まだ受け入れたことがない小さな子どもは、バプテスマの対象となりません。彼らはバプテスマを理解していないため、その儀式の対象からは除外されます。

それと同様に改心を経験していない大人、信じていない人、あるいは聖書にある真理について指導を受けたことの無い大人も、バプテスマを受けることはできません。

もし人が、誤った諸原則をいただきながらバプテスマを受けたり、過去のバプテスマの契約を破られていたり、あるいは部分的な教育しか受けずにバプテスマを受けた人は、二度目のバプテスマを受けることができます。バプテスマヨハネによってバプテスマを受けたある人々は、イエスの名において再度、バプテスマを受けました。なぜなら最初のバプテスマが、完全ではなく、十分ではなかったとみなされたからです。

「『では、だれの名によってバプテスマを受けたのか』と彼がきくと、彼らは『ヨハネの名によるバプテスマを受けました』と答えた。そこで、パウロが言った、『ヨハネは悔改めのバプテスマを授けたが、それによって、自分のあとに来るかた、すなわち、イエスを信じるように、人々に勧めたのである』。人々はこれを聞いて、主イエスの名によるバプテスマを受けた」(使徒行伝 19:3-5)。

聖書におけるバプテスマの教訓

旧約聖書の時代においては、バプテスマを施す宗教家が多くいました。人々に自分の罪を悔い改め、バプテスマを受けるように人々を招いた最初の人として記録されているのは、ヨハネです。「そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教を宣べて言った、『悔い改めよ、天国は近づいた』」（マタイ 3:1,2）。

バプテスマヨハネのメッセージはエルサレムにおいて、人々に伝えられ、彼らの多くが彼のところに来て、何をすべきか尋ねました。その答えは、次でした。「だから、悔改めにふさわしい実を結べ」（マタイ 3:8）。

ヨハネの言葉を聞いた人々のうち、多数の者は、改心し、罪を放棄することの必要性を感じました。彼らは、その罪を告白し、バプテスマを受けました。

「すると、エルサレムとユダヤ全土とヨルダン附近一帯の人々が、ぞくぞくとヨハネのところに出てきて、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた」（マタイ 3:5,6）。

これらの聖句から、悔い改め、告白、罪の許しがバプテスマに先立つことを理解できます。これらは、わたしたちを救う神のご計画において、重要かつ必要な過程です。人々が、救われるために何をすればよいのかを尋ねたとき、使徒たちが持っていた答えは次の一つだけでした。「人々はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに、『兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか』と言った。すると、ペテロが答えた、『悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。』（使徒行伝 2:37,38）。

他の場所でペテロは同様の言葉を次のように述べています。「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい」（使徒行伝 3:19）。

バプテスマと改心は共に進みます。なぜなら、バプテスマは、改心を象徴するからです。

バプテスマを受けることにより救われることは可能だろうか？

十字架の上にいた盗人のように、ごく例外的な場合においては、バプテスマを受けることなく救われることも可能でしょう。しかし、神のみ言葉によれば、本当の悔い改めにはバプテスマが伴うことになっています。

「そして彼らに言われた、『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は

罪に定められる』(マルコ 16:15,16)。

キリスト自身、義を成就するにあたり模範として、バプテスマを受けることを選択されました。

「そのときイエスは、ガリラヤを出てヨルダン川に現れ、ヨハネのところにきて、バプテスマを受けようとした。ところがヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った、『わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか』。しかし、イエスは答えて言われた、『今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである』。そこでヨハネはイエスの言われるとおりにした」(マタイ 3:13-15)。

まごころから悔い改めた罪人は、自分の本当の状態を認めて、次のように尋ねます、「救われるためにはどうすればよいでしょうか」。獄吏は、少し前の大きな危機と、自分自身の失われた状態に深く印象づけられて、「あかりを手に入れた上、獄に駆け込んできて、おののきながらパウロとシラスの前にひれ伏した。それから、ふたりを外に連れ出して言った、『先生がた、わたしは救われるために、何をすべきでしょうか』。ふたりが言った、『主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます』。それから、彼とその家族一同とに、神の言を語って聞かせた。彼は真夜中にもかかわらず、ふたりを引き取って、その打ち傷を洗ってやった。そして、その場で自分も家族も、ひとり残らずバプテスマを受け」た(使徒行伝 16:29-33)。

そうです、親愛なる読者の皆さん、世に対して死に、葬られ、イエス・キリストにおいて新たな命によみがえらないかぎり、救われることは不可能です。キリストの血によって、わたしたちの過去の罪はすべて洗い流され、そして今、新しく生まれて、自分たちの天父のみ言葉の勧告に従い、イエスを自分の模範とすることによって、わたしたちは救いと罪に対する勝利を経験し始めるのです。バプテスマを意図的に軽視する魂は、神の基準に対して真の敬意を払わず、経験に欠けていることをあらわしています。この経験を欠くことにより、やがて、救いへの扉は閉ざされてしまいます。

バプテスマを行うことができるのはだれか？

だれもがバプテスマを行う資格があるわけではありません。神は、ご自分の教会に、さまざまな職務をおかれしました。そして、組織された体は、このお方の体、すなわちこのお方の教会に加わることを望む人々に認められなければなりません。

神がサウロに救われる機会をくださったとき、このお方が個人的に彼の指導

をなさったのではありませんでした。その代わりに、サウロ（今はパウロ）にその義務を教えるようにと神に命じられたアナニヤという名の弟子のところへ導かれました。アナニヤがパウロの改心が本物であることを認めたとき、そのときになって初めて、アナニヤはパウロにバプテスマを施しました。

「そして彼は震え、驚いていった。主よ、あなたはわたしに何をおさせになりたいのですか。主は彼に言われた、さあ立って、町にはいつて行きなさい。そうすれば、そこであなたのなすべき事が告げられるであろう」（使徒行伝 9:6 欽定訳）。

「そこでアナニヤは、出かけて行ってその家にはいり、手をサウロの上において言った、『兄弟サウロよ、あなたが来る途中で現れた主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊に満たされるために、わたしをここにおつかわしになったのです』。するとたちどころに、サウロの目から、うろこのようなものが落ちて、元どおり見えるようになった。そこで彼は立ってバプテスマを受け」（使徒行伝 9:17,18）。

キリスト教に改心したエチオピア人は、按手を受けた「教会の役員」によってバプテスマを受けました。二人が旅をしていたとき、執事であるピリポは、エチオピア人がまことに改心していることを認識しました。「そこで車をとめさせ、ピリポと宦官と、ふたりとも、水の中に降りて行き、ピリポが宦官にバプテスマを授けた」（使徒行伝 8:38）。

バプテスマを施す権威が与えられているのは、その聖なる儀式のために按手を受けた教会の牧師や長老です。

教会の役員と、指導を受けて改心したバプテスマの候補者は水の中へ入り、そして候補者は、御父、御子、聖霊の名によって、完全に水の下に沈められます。これが聖書的な真のバプテスマです。

天国で

In Heavenly Places



7月

クリスチャンの忠誠の誓約

「あなたがたはわたしに対して聖なる者でなければならない。主なるわたしは聖なる者で、あなたがたをわたしのものにしようと、他の民から区別したからである。」(レビ記 20:26)

信仰によって神の許に来る者の品性は、救い主が彼の生活の中に入り、すべてを導き、すべてに行き渡っておられるという証を担うようになる。このような人はたえず「わが救い主よ、これがあなたのみ旨であり、方法でしょうか」と尋ねる。彼はたえずイエスを眺める。……彼は、自分のすべての行動に関して自分の神なる友に勧告を仰ぐ。なぜなら、彼はこの信頼にこそ、自分の力があることを知っているからである。彼はあらゆる困惑、あらゆる不確かなことにおいて神の許へ心を上げることが習慣としている。

神を自分の主権者として受け入れる人は、このお方に対する忠誠の誓いをしなければならない。彼はクリスチャンのユニフォームを着て、自分がどの軍隊に属するかを示す旗を高く掲げなければならない。彼はキリストに対する自分の忠誠を公に宣言しなければならない。隠すことは不可能である。キリストの押印が生活の上に聖化された行いのうちに現れなければならない。

「わたしはあなたがたを他の民から区別したあなたがたの神、主である」「あなたがたはわたしに対して聖なる者でなければならない。主なるわたしは聖なる者で、あなたがたをわたしのものにしようと、他の民から区別したからである」「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように」「この民は、わが誓を述べさせるためにわたしが自分のために造ったものである」「あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(レビ 20:24, 26; テサロニケ第一 5:23; イザヤ 43:21; ペテロ第一 2:9)。……

キリストを通して、神のみ旨に完全に服することが唯一のわたしたちの安全である。魂を勢いよく吹き抜けて、不協和音を作り出す利己的な思想や衝動は、全存在がキリストの支配下にあるときのみ、生活から切り離すことができる。あらゆる律せられていない諸要素に対する救い主のみ言葉は「静まれ、黙れ」である。キリストはご自分を自分の救い主として受け入れる者をすべて歓迎なさる。そして、彼らの王として彼らの上に君臨なさる。……神の御国の進展のためのわたしたちの熱心によって、わたしたちはキリストの十字架の忠実な臣民として区別されなければならない。神はご自分に絶対的に従う者たちだけをご自分の代表者として信頼することがおできになる。(原稿 82, 1900 年)

7月2日

神への余すことのない公約

「目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明る
いだろう。」(マタイ 6:22)

人のうちになされる神の霊の働きは、彼を通常の生活の一般的な義務に適さ
ない者とする働きではない。仕事のための宗教と教会のための宗教が別にあるの
ではない。神の霊の働きは、全人格、魂、体、そして霊を包括している。

神のみ言葉が心のうちに永続的な原則として抱かれるとき、また、すべての且
つ一つ一つの環境下で堅く守られるとき、人はそのゆだねられた能力とともに、
主イエス・キリストの支配下に置かれる。彼の分割されていない力、そして彼の
思想でさえ、キリストのとりことなる。これが真の聖化である。経験のあらゆる部
分が完全な調和のうちに混ぜ合わされる。彼には「なんら欠けたところがない」。
彼は、ただ自分がしたいようにするために一部を自分自身にとっておいたりはしな
いのである。……

「目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明
るいだろう」ここで、誰かほかの人の目とは言わずに、「あなたの目」と言っている。
豊かな経験を持つことがわたしたちの特権であるが、あたかも自分たちが盲人で
あるかのように、だれかが自分たちの代わりに見て、わたしたちを霊的な経験に
導いてくれるようにと期待するときにそれを失ってしまう。わたしたちは、神の栄
光だけに目を向けていなければならない。自己と縁を切り、躊躇することなく他
人を優先するという一つの根気強い目的をもっていなければならない。……

神のみ旨を行うという唯一の目的を持って奮闘しつつ真に神を畏れ、愛する
者は、自分の体、自分の思い、自分の心、自分の魂、自分の力を神への奉仕の
下におく。このようにしたのがエノクであった。彼は神とともに歩んだ。彼の思いは、
不純で欠陥のある視力によって汚されることはなかった。神の御意志を自分の意
志とすると決心するものはあらゆることにおいて神に仕え、神を喜ばせなければ
ならない。そのとき、品性は、調和して、よく均衡が取れ、一貫した、快活で、真
実なものとなる。……

あなたは、おのおの自分の恩恵期間を日に日に生きている。そして日が過ぎる
たびに自分の経験を得る。しかし、あなたは、もう一度同じところをやり直すこ
とはできない。であるから、すべての貴重な瞬間を、裁き主が座して書を開かれ
るときにそうあって欲しいとあなたが望むように用いなさい。わたしたちの主は、
わたしたちが持っていた機会に従ってわたしたちを裁かれる。(手紙128, 1897年)

神のための宮

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」(コリント第一 3:16)

とこしえの時代よりすべての被造物、すなわち光り輝く聖天使セラフから人間にいたるまで、創造主の宿る宮となることが神のご目的であった。罪のために、人類は、神のための宮ではいられなくなってしまった。……

神は、エルサレムの宮がすべての魂に開かれた高い運命に対する証人となり続けるようにとご計画された。しかしユダヤ人たちは、建物の意味を理解しておらず、彼らは大変な誇りを持ってそれを見ていた。……エルサレムにある宮の庭は、汚れた商売の騒動に満ちていて、まったくあまりにも真実に、情欲的な感情と不敬な思想で汚された心の宮を表していた。世の売買人から宮を清めることによって、イエスは、罪の汚れ、すなわち、魂を墮落させる地上の野心や、利己的な欲、悪習慣から心を清めるご自分の使命を宣言された。……キリストだけが魂の宮を清めることがおできになる。……このお方のご臨在が魂を清めて聖化する。それは、主に対して聖なる宮となり、「霊なる神のすまいとなる」ことができるためである(エペソ 2:22)。

しかし、この美しく印象的な譬えは、このお方がわたしたちに肉体組織にもっておられる関心と、わたしたちにおかれたそれらを最高の状態に維持する責任とを示している。わたしたちの体は、キリストが買われた所有物であり、そしてわたしたちにはそれらを自分の好きなように扱う権利はない。人はそうしてきたのであった。人は自分の体をあたかもその法則が何の罰則も持っていないかのように扱ってきた。ゆがんだ食欲を通して、その器官と力は弱くなり、病み、不具にされてきたのである。……

男女が真に改心したとき、彼らは良心的に神が自分たちの存在のうちに設立してくださった命の法則を尊重するようになる。こうして、肉体的、精神的また道徳的弱さを避けるよう努力する。これらの法則への服従が、個人の義務の問題とされなければならない。わたしたち自身が、犯された法則の害悪に苦しまなければならない。わたしたちは、自分たちの習慣や常習行為について神に答えなくてはならない。であるから、わたしたちのための質問は、「世は何と言うか」ではなく、「クリスチャンであると主張しているわたしは神が与えてくださった住まいをどのように取り扱うのか」である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1908 年 12 月 31 日)

7月4日

体の宮を守る

「わたしはあなたをほめたたえます。わたしは恐るべく、くすしく造られたからです。あなたのみわざはくすしく、あなたは最もよくわたしを知っておられます。」(詩篇 139:14 欽定訳)

詩篇記者は、「わたしは恐るべく、くすしく造られたからです」といった。神は、わたしたちに思いと体の機能と力を賜った。そして、すべての者にとって、それらを最高の状態に保つことが義務である。もし、誰でも食欲の放縱を通して、自分たちの力を弱めるならば、彼らは、自分たちの感化力を減じさせ、自らを不完全にしているのである。カルバリーの十字架上でささげられた高価な捧げ物によってのみ、わたしたちは、人間の魂の価値を理解することができる。わたしたちは、アダムの罪により、もたらされた罪のくびきからの自由を得るために、イエス・キリストの贖いの力によって有利な位置におかれている。(手紙 90, 1898 年)

わたしたちは神から貸し与えられている能力とタラントを最善に用いなければならない。肉体的、精神的、そして道徳的な力を罪深い食事や罪深い着衣、またいかなる面においても、健康の法則を犯すことによって弱めている者はすべて、もし、自己放縱や不注意や、自分の住んでいる家に対して無頓着にするかわりに、かえって健康の法則を守ってきたなら、なしえたはずのあらゆる善に対して神に言い開きをしなければならない。……神ばあなたは自分自身のものではない」と仰せになる。あなたは、神の所有物なのである。あなたの贖い代は神の御子の命を要したのである。……すべてのものが支払われた犠牲の大きさを考えるべきである。天の大能者、栄光の王は、男女が自分たちの全心の奉仕をご自分に捧げるようにと意図されている。

使徒パウロの言葉の中には深い意味がある。「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」(ローマ 12:1, 2)。

だれ一人として、体や魂を傷つける行為を続けるならば、神に誉れを帰すことはできない。わたしたちの犠牲は聖なるもので傷のないものでなければならない。これがすべてのもののなすべき霊的な礼拝である。わたしたちは、神の作品であって、神の建物である。……

神は、わたしたちが自分たちにあるすべてを持ってご自分に誉れを帰すことを望んでおられる。(同上)

「わたしたちのなすべき霊的な礼拝」

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」(ローマ 12:1)

使徒は、自分の兄弟たちに自分の体を神に捧げるようにと嘆願した。……わたしたちが、精神的また肉体的生命力を減じさせる行動を続けるとき、すなわちそれが飲食やほかのどのような自分の習慣においてであつても、わたしたちは神を辱めているのである。なぜなら、わたしたちはこのお方から、このお方がわたしたちから要求しておられる奉仕を奪い取っているからである。わたしたちが健康を犠牲にして食欲にふけると、あるいは、わたしたちが、生命力や精神の活力を減じさせる習慣にふけると、わたしたちは贖罪を高く評価することはできないし、永遠の事柄を正しく見積もることができない。

病気によってわたしたちの思いが曇らされ、部分的に麻痺するとき、わたしたちはサタンの誘惑に簡単に負かされてしまう。食欲を満足させるために不健康な食物を食べることは、血液の循環を不均衡にし、神経衰弱を引き起こす直接的な傾向があり、その結果として、忍耐と真実の高尚な愛情が大いに欠乏することになる。体質の強さは、道徳の傾向や精神的機能と同様にゆがんだ食欲の放縱を通して弱められる。……

世のあらゆる宝も、精神的、道徳的力の価値と比べると意味を失ってしまう。そして、これらの機能が健全に働くかどうかは、肉体的な健康にかかっている。であるなら、わたしたちがいかに健康を保つかを知り、神と人に対するわたしたちの義務を、このお方の戒めにしたがってなすことができるようにすることは、いかに重要なことであろう。神の律法は明白で明瞭である。どれ一つとっても不確かさで曇っているものはない。どれ一つとして誤解の余地がない。それらを識別することができない者は、知性を弱らせる自分自身の悪習慣によって麻痺させられているのである。

神は、わたしたちにあらゆることにおける節制の重要性を教えようとしておられる。不節制が、はじめの両親が神の律法を犯すことによって彼らをその聖潔で幸福な状態から墮落する原因となったように、あらゆることにおける節制が、わたしたちの機能を可能な限り健全な状態に保ち、どんな霧も不確かさもそれらを何一つ曇らせることがないようにし、知性がこのお方の律法を守るのに正しい行動へと導くようにするのである。……わたしたちは、もし、シナイ山から語られた、今も拘束力のある神の律法を識別したいのであれば、自然の法則と調和して働かなければならない。(手紙 27, 1872 年)

7月6日

食欲のテスト

「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。」(コリント第一 9:27)

神の御子は、ご自分のバプテスマの後、悪魔の誘惑を受けられるために、わびしい荒野へと入られた。ほとんど六週間の間、このお方は、空腹の苦しみに耐えられた。……このお方は人類にのしかかる食欲の力を悟られた。そして、罪深い人間のために、このお方は、最も究極なテストに耐えられたのである。ここで、ほとんど正しく理解する者がいない勝利が獲得された。墮落した食欲の支配力と、それにふける嘆かわしい罪は、わたしたちの救い主がその力を打ち破るために耐えられた断食の長さによってのみ理解することができる。……

不節制は、人間に知られているあらゆる道徳的罪の基盤となっている。キリストは贖いの働きを、ちょうど墮落が始まったところから始められた。わたしたちのはじめの両親の墮落は、食欲の放縱から始まったのであった。贖いにおいて、食欲の否定がキリストのはじめのわざであった。(ヤザリグ 10 - 12)

神の御子は、人間が自分ではこの強力な誘惑に打ち勝つことができないのをご覧になった。……このお方は、ご自分の神性の力をわたしたちの人間の努力に結びつけるために地にこられた。それは、ご自分がお与えになる強さと道徳的力を通して、わたしたちが、自分自身のために打ち勝つことができるためである。ああ、栄光の王が、人間のために無限の勝利を獲得しようと、空腹の痛みとずるがしこい敵の激烈な誘惑に耐えるためにこの地上に下ってこられるとは、なんと比類なき謙遜であろう。ここに並ぶもののない愛がある。しかし、この大いなる謙遜も、そのためにこれをなしてくださった者たちからは、ぼんやりとしか理解されていない。

わたしたちの贖い主の苦しみがこれほど筆舌に尽くしがたいほど過酷であったのは、空腹の苦しい痛みのためばかりではなかった。これほどまでにこのお方の神聖な魂に重くのしかかったのは、世にこのような恐ろしい苦痛をもたらした食欲の放縱から生じる罪の意識であった。……

人間の性質と、ご自分にのしかかる人間の罪の恐ろしい重さをかかえて、わたしたちの贖い主は、この人間の魂を危険に陥れる最大の誘惑において、サタンの力に耐えられた。もし、人がこの誘惑に打ち勝つとしたら、あらゆるほかの点において勝利することができる。(同上)

純潔のための戦い

「自分をきよく守りなさい。」(テモテ第一 5:22)

思いと魂と体の純潔が何から成り立っているのかを知ることは、教育の重要な部分である。(両親、教師、生徒への勧告 103)

品性が純潔さに欠けているとき、罪が品性の一部となつているとき、それは、人を酔わせるアルコール飲料に匹敵するほどの惑わす力がある。自制と理性の力は、全存在を汚す習慣によって圧倒されてしまう。そして、もし、これらの罪深い習慣を続けるならば、脳は弱められ、病気になり、そしてその均衡を失ってしまう。このような者は、自分自身にとっても、また自分たちに接触するすべての人にとつてものろいである。……

悪習慣は、良い習慣よりも形成しやすい。そして、悪習慣を止めるのはもっと困難である。生来の心の墮落はこのよく知られている事実で説明することができる。すなわち若者を墮落させ、彼らの道徳的また宗教的性質の観念を汚染させる方が、彼らの品性に永続的で純潔な墮落していない義と真理の習慣を植え付けるより、はるかに労しないということである。自己放縦、娯楽への愛着、敵意、誇り、自尊心、ねたみ、嫉妬は、模範や教えも無いのに、自然に育つ。わたしたちの墮落した現状では、必要なのは、ただ思いと品性をその生来の傾向に明け渡してしまうことである。自然界で、もし畑をそのままにほうって置くならば、それがいばらやあざみで覆われるのを見るであろう。しかし、もし貴重な殺物や美しい花を産出するなら、世話や絶やすことのない労働がなされねばならない。(手紙 26d, 1887 年)

今わたしたちは、あなたの前に悪に対する耐えざる抵抗の必要性を示す。全天は、神が、あがなうためにはひとり子をも死ぬために与えてくださったほど大変な価値をおかれた男女に関心を持っている。神が、人間ほどの向上、それほど精錬、そしてそれほどの高潔さを可能となさった被造物はほかになかった。であるから、人が自分たちの卑しい感情によって鈍くなり、悪徳に沈むのをご覧になるとき、それは神にとってどんな実例であることであろう!人は自分がどのような者になるか、どのような者になれるかを理解することはできない。キリストの恵みを通して、彼は、たえず精神的な発達を遂げることができる。真理の光が彼の思いに輝き、神の愛が彼らの心に広く降り注がれるようにしよう。そうすれば、キリストが彼に与えるために死んでくださったその恵みを通して、力の人になることができる。すなわち、地上の子でありながら不死の相続者となることができる。(同上)

7月8日

一歩ごとの危険

「そこで、あなたは若い時の情欲を避けなさい。そしてきよい心をもって主を呼び求める人々と共に、義と信仰と愛と平和とを追い求めなさい。」(テモテ第二 2:22)

すべて、老若ともにさらされている道徳的な危険は日毎に増している。道徳的混乱、すなわち、わたしたちが墮落と呼んでいるところのものが、働き場所にあふれるほど見出され、クリスチャンであると公言する男女や青年たちによって、低俗で、情欲的で、悪魔のような感化力が及ぼされている。……

真理を学んでいながら、自分たちの公言する信仰に見合うわざのない者たちはサタンの誘惑の支配下にある。彼らは、前進する一歩ごとに危険に出会う。彼らは、悪と接触するようになり、そこで、彼らは光景を目にし、音を聞く。そしてそれらが彼らの抑制されていない感情を呼び覚ます。彼らは、自分たちに善より悪を選ばせるように導く感化力の支配下に入る。なぜなら、彼らは、心が健全でないからである。意志の力が働かされるべきちょうどその時、誘惑に近づく第一歩に抵抗するために堅固さが要求されるちょうどその時に、あなたは、それらがサタンの策略のたやすい標的であり、単なる悪魔のおもちゃに過ぎないことを知る。あらゆる誘惑が今、神の戒めを守ると主張する者たちに、それらを破らせようと働いている。……

すべての人が良い性質にどのような力が有るかという教訓を学ばなければならぬ。若い男女が道徳的廉直さを持ち、彼らの魂を道徳的汚れというすべてのしみやしわから清めるために彼らを準備させることほど、わたしたちが今必要としている訓練は他にない。道徳と聖潔の標準が粉塵にまみれて地に引きずられている。……

わたしたちは、すべての人が神の御前に調査される恩恵期間の終わりに近づいている。恩恵期間である今は、神がわたしたちに純潔で清潔な品性を形成するために与えてくださっている時間である。もし、これが活用されないならば、もし思想が不純であるならば、もし心が聖化されないならば、もし聖くない習慣にふけるならば、そのような者の分は、聖くない者、墮落した者、また忌むべき者と共にあるのだということをしっかりと覚えておきなさい。

すべての魂が自分の選択をするのは恩恵期間の今である。この選択は、家族のうちでなされ、教会の仲間のうちでなされるのが見られるであろう。……「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである」(マタイ 7:20)。(手紙 26, 1887 年)

道徳的力を守る

「愛する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたはこの世の旅人であり寄留者であるから、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。」(ペテロ第一 2:11)

現代、会話の中に警戒すべき低俗さがある。それらは思想と道徳の低俗な状態を示している。品性の真の尊厳さは非常にまれである。真の控えめと慎みとはめったに見られない。純潔で汚れていない者はほんのわずかしかない。……神は、これらのことを不快にご覧になっておられる。……

汚れた思想を心に抱いていると習慣になり、魂は傷つけられて、汚される。一度悪い行為を行うと、キリストの血以外には何ものをも癒すことのできない傷がつく。そして、もし、習慣を固い決心を持って止めないのであれば、魂は墮落し、この汚れた泉からあふれる流れが他人を墮落させるのである。(手紙 26d, 1887年)

誘惑を招く男女がいる。彼らは、好ましくない社会に自らの身を置くとき、自らの身を誘惑されるようなところ、誘惑されるしかないところに置くのである。罪からの安全を保つ最上の方法は、あらゆるときにあらゆる環境下でしかるべき思慮をもって行動することである。熱して衝動から動いたり行動したりしてはならない。常にあなたの前に神への畏れをもって動きなさい。そうすれば、あなたは間違いなく正しい行動ができる。そして自分の評判は神に任せなさい。中傷はそのとき、あなたの品性を一角でさえ汚すことはできない。わたしたち自身が自分のとる行動によってする以外には、だれ一人わたしたちの品性を辱めることはできない。……

思いは、純潔で聖なる主題を瞑想し続けていなければならない。不純なほめかしは、直ちに退けてしまわなければならない。そして純潔で高尚な思想、聖なる瞑想が心に抱かれなければならない。こうして、思いを天の事柄を瞑想するように訓練することによって、ますます神の知識を獲得しなければならない。神はすべての人が手にすることのでき、かつ偉大な目標である魂の救いを自らのものとするのに十分である単純な手段をもっておられる。高く聖なる標準に達するよう決意しなさい。あなたの目標を高くしなさい。ダニエルがしたように、堅固に、辛抱強く、熱誠な目的をもって行動しなさい。そうすれば、敵はあなたの向上を妨げるために何もできない。不都合や、変化、困惑があっても、あなたは精神的な活力と道徳的力において、たえず前進することができる。(同上)

7月10日

肉を十字架につける

「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。」(ガラテヤ 5:24)

わたしたちは、自分自身のものではない。わたしたちは「代価を払って買いとられた」もの(コリント第一 6:20)しかも、それは「銀や金のような朽ちる物によったのではなく…キリストの尊い血によったのである」(ペテロ第一 1:18, 19)。これは、「生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである」(コリント第二 5:15)。

すべての人類は、この無限の代価を払って買われたのである。神は、この世界に天の全資産を傾けること、すなわち、キリストにあって、全天をわたしたちに与えることによって、すべての人の意志、愛情、知能、魂を買いとられたのである。……すべての人は、神の所有である。(キリストの実物教訓 300)

「代価を払って買いとられた」という表現は、わたしたちのすべてを意味している。わたしたちのために支払われた代価を考えると、わたしたちは、自分たちの体と魂をご自分の血でわたしたちを買ってくださったお方に明け渡さないであろうか。このお方が贖ってくださったものは、可能な限り健全に、純潔に、そして聖なる状態に保たれないのであろうか。……わたしたちの肉体そのものを、このお方は無限の代価をもって、ご自身の肉体を世の命のためにお与えになって救ってくださったのである。

低俗な感情は、肉体の中にその座を占め、肉体を通して働く。「肉」、あるいは「肉の」、あるいは「肉の欲」という言葉は、低俗で墮落した性質を含んでいる。肉それ自体は、神のみ旨に逆らって行動することはできない。わたしたちは、肉をその情と欲とともに十字架につけるようにと命じられている。どのようにしたら、わたしたちにこれができるであろうか。わたしたちは、肉体に苦痛を加えるべきであろうか。否、そうではなく、罪への誘惑を死に至らしめなさい。墮落した思想は追放されなければならない。……すべての動物的な性向は、魂のより高い力に服さなければならない。神の愛が最高位を治めなければならない。キリストが分割されていない王座を占めなければならない。わたしたちの体は、このお方の購入された所有物だとみなされなければならない。体の肢体は、義の器とならなければならない。(原稿 1, 1888 年)

イエスは、ご自分に信頼をおくものすべての者たちの助け手であられる。キリストに結びついていない者たちは、自分たちの掌中に幸せをつかんでいる。彼らは、このお方のために肉をその情と欲とともに十字架につけて、自分の救い主が導かれる道に従う。彼らは自分たちの望みをキリストの上に築く。そして地の嵐には、彼らを確かな基礎から一掃する力はないのである。(両親、教師、そして生徒への勧告 225)

断固とした決断力のある「否」

「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができません」
(創世記 39:9)

いつも、適応しやすく順応しやすい性質で、正面から、否と発言するのが困難な者、より強くて決然とした意志によってたやすく神から放れさせられてしまう者がいる。これらの人には信頼できる内なる強さ、彼らを邪悪なほのめかしを受け入れたり、悪習慣を形成したりすることから守る堅固な原則がない。……

老若ともに、すべての人がさらされている道徳的危険は日毎に増している。……サタンは、結婚した男女や、子供、若者たちを不純な習慣に巻き込もうと躍起になって努力している。彼の誘惑は多くの心のうちで受け入れられる。なぜなら、彼らは自分たちが信じていると公言している聖なる真理によって、高くされず、純潔にされず、精錬されず、高尚にされてきていないからである。思想において低俗で卑しく、言葉や振る舞いに品のない者は少なくない。そして、サタンの誘惑にあうと、彼らにはそれらに抵抗する道徳的な力がなく、まんまと餌食になってしまうのである。……

わたしたちは、たえず自分たちの前に神への畏れをもつていないのではないかと警戒する必要がある。わたしたちは、生ける神から離れさせることがありはしないかと恐れる必要がある。なぜなら、このお方だけがわたしたちの力であり、敵がその誘惑でわたしたちを責め立てるとき、わたしたちが走りこんで安全でいられる要塞であるからである。

わたしたち一人びとりにとって関心の的であるのはいかにして、わたしたちが自分たちの器を聖なる神の御目に誉を保つことができるかということである。……わたしたちが寝るときも、起きるときも、出て行くときも、入ってくるときも、わたしたちにとって安全はない。サタンと悪天使たちは、邪悪な男と邪悪な女と共謀しており、闇の勢力の全勢力が、永遠の真理の堅固な諸原則によって守備隊のおかれていないすべての魂を迷わせ、破壊させるために結集している。……

義の原則が魂に植えつけられなければならない。信仰はイエス・キリストの力をつかまなければならない。さもなければ安全はない。不道徳な習慣は、洪水前の時代のようにありふれたものとなりつつある。……この時代の律法を守る者だと主張する男女の道徳力の弱さが、わたしを不安にさせる。すべての者は立ち上がって、純潔の旗印を掲げる必要がある。(手紙 26, 1887 年)

7月12日

完全な聖化

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全きよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。」(テサロニケ第一 5:23)

聖化、いったいどれだけの人がこの完全な意味を理解しているであろう。思いは、感覚のマラリヤで曇っている。思想は清められる必要がある。男女が、体の取り扱いは思いと心の活力と純潔とにすべて関係しているということを悟ってさえいたなら、どんなに違っていることであろうか。……男女は代価をもって買われたのである。ああ、それはいったいどんな代価であったことであろう！神の御子の命でさえ支払われたのである。彼らが自分たちの肉体的、精神的、道徳的力が汚される立場、活力と純潔とを失う立場に自らの身をおくとは彼らにとって何と恐ろしいことであろう。そのような男女は、神に受け入れられる犠牲をささげることができない。(手紙 139, 1898 年)

真のクリスチャンは、聖潔をもたらす経験をわがものとする。彼は良心に罪のしみが無く、また魂に墮落の汚点もない。神の律法の霊性とその制限する原則とともに彼の生活に持ち込まれる。真理の光が彼の理解を照らす。贖い主に対する完全な愛の明々とした輝きとその魂と神の間に介入していた毒気を一掃する。神のご意志が彼の意志となり、純潔で、高尚で、精錬され、聖化されたものとなる。その顔には天の光が表される。彼の体は、聖霊の宮にふさわしいものとなる。聖潔が彼の品性を飾る。神は彼と交わることがおできになる。なぜなら、魂と体が神と調和しているからである。(同上)

神の戒めに従おうと努めながら、喜びや平安のない人が多い。彼らの経験に喜びや平安が欠けているのは、信仰を働かさないからである。彼らはあたかも、塩の土地や焼けつく荒野を歩いているかのようなのである。彼らは多くのことを求めることができるのに、ほとんど求めない。神の約束には制限がないのである。このような人たちは、真理に従うことによって与えられるきよめを正しく示していない。主はご自分のむすこ、娘たちのすべてを幸福で、平和にみち、従順なものにさせて下さる。信者は信仰を働かせることによってこれらの祝福を受けるようになる。信仰によって、品性の欠陥がすべて補われるのであり、すべての不潔なものがきよめられ、欠点がなおされ、長所がのびされるのである。(患難から栄光へ下巻 267)

わたしたちの最高の義務

「あなたがたをキリストにある永遠の栄光に招き入れて下さったあふるる恵みの神は、しばらくの苦しみの後、あなたがたをいやし、強め、力づけ、不動のものとして下さるであろう。」(ペテロ第一 5:10)

キリストの弟子となるために人が持たなければならないと示された品性があまりにも完全であったので、異教徒はどんな人間もそれを獲得することは不可能であるといってきた。しかし、神の子であると主張するすべての者によって、これより低い標準が提示されてはならない。異教徒たちは、信仰によってそれを捜し求めるすべての人に天の助けが提供されることを知らない。神の性質にあずかる者となり、イエス・キリストにあって完成された者となることを求めるすべての魂のために、すべての備えがなされてきた。すべての欠点を見分け、厳格な決断をもって品性から切り取られなければならない。

神の民は、すべての行動を献身へと変えなければならない。彼らはすべての食事があたかも無限の神が自分たちに表された愛のしるしであることを知っているかのようにそれにあずからなければならない。一つの義務の終了は、次に表される義務の始まりでなければならない。そのとき、クリスチャン品性は、絶え間ないイエス・キリストへの服従と奉仕の生涯のうちに表されるのである。

人の携わる仕事がどのようなものであっても、もしクリスチャンであるならば、彼らはキリストの義務のくびきを負わなければならない。これは、彼らの忠誠である。彼らは自分たちをよりすぐれた義務に結び付けて考えなければならない。主人であられるイエス・キリストは、ご自分のくびきをすべての弟子たちの首に置かれた。このお方のくびきを受け入れるとき、このお方に生涯の奉仕を誓うのである。彼の神への完全な奉仕を傷つけたり、妨げたりするものは何であつても、その性質や性格にかかわらず碎かれなければならない。……

主は、ご自分の性質を人性に結び付けてくださった。それはご自分がよりはっきりとした明白なわたしたちの瞑想と愛の対象となられるためである。このお方は、わたしたちに近づくように、そして偉大な光、すなわちとても和らげられ、抑えられているのでわたしたちの目でも見るのに耐えられる栄光を放射しておられる、人性という衣をまとわれた見えない神を瞑想するようにと招いておられる。キリストは天の光であられる。この方のみ顔に、わたしたちは神を見るのである。ご自分と御父が一つであられるように、ご自分の民がご自分と一つになるようにという、また彼らがご自分のいるところにおいて、ご自分の栄光を見ることができるようというキリストの祈りを思いのうちに抱いていなさい。(手紙 117, 1896 年)

7月14日

聖なる制度結婚

「妻を得る者は、良き物を得る、かつ主から恵みを与えられる。」(箴言 18:22)

結婚は、キリストの承認と祝福を受けたものであり、聖なる制度としてみなされるべきである。真の宗教は主のご計画に相逆らって働くことはない。神は、女性に聖なる婚姻のうちに男と一つになり、誉れを帰し、天の家族の象徴となる家族を起こすようにと定められた。……結婚は純潔と聖潔、真理と義をもって結び合わされるとき、人類家族にかつて与えられた最大の祝福の一つである。……

キリストから発する神の愛は決して人間の愛を減ぼすものではなく、精錬し純潔にされた人間の愛を含むものである。それによって人間の愛は高められ、高尚にされる。人間の愛は、それが神性と結びつき、天に向かって成長するように訓練されない限り、決して実を結ぶことはできない。イエスは、幸せな結婚、幸せな炉辺を見たいと望んでおられる。夫と妻の心を結び付ける真の友情と愛情の暖かさは、天の前触れである。神は結婚関係に入る者たちの間に完全な愛と完全な調和があるべきことを定められた。花婿と花嫁は 天の宇宙の前で、神が彼らにそうするようにと定められたように互いを愛することを誓いなさい。……

神は男から女を造られた。それは、彼にとって連れ合いとなり伴侶となるため、彼と一つになるため、彼を元気づけ、励まし、祝福するためであった。そして男は、同様に彼女の強い助け手となるのであった。聖なる目的を持って結婚関係に入る者はすべて、すなわち夫は女の心の純粋な愛情を得ること、妻は自分の夫の品性を和らげ、向上させ、それに完全さを与えることという、自分たちのための神のご目的を成就するのである。

キリストはこの制度を破壊するためではなく、かえってそれをもととの神聖さと高尚さに回復するために来られたのである。このお方は人間のうちに神の道徳的かたちを回復するために来られた。そして、このお方は、結婚関係を承認なさることによってご自分の働きを始められた。はじめの聖なる夫婦を造られたお方、そして彼らにパラダイスを創造されたお方は、結婚制度にご自分の印を押され、はじめにエデンで、明けの明星がすべての神の子らとともに喜び呼ばわったときに祝われたのである。(原稿 16, 1899 年)

婚姻の絆

「また主なる神は言われた、『人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。』」（創世記 2:18）

わたしはたびたび次の言葉を読んだことがある。「結婚はくじ引きである」。ある者はあたかも彼らがこの言葉を信じているかのように行動し、彼らの結婚生活は彼らにとってそれがそのようなものであることを証する。しかし、真の結婚はくじ引きではない。結婚はエデンで制定された。アダムの創造の後、主は「人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」と仰せになった。「彼に」ふさわしい助け手である。主がエバをアダムにつれてこられたとき、神の御使たちは、この儀式の証人たちであった。しかし、結婚式が執り行われるときに完全に一致している夫婦はほとんどいない。結婚の誓いをなす二人に語られる形式的な言葉が彼らを一致させるのではない。彼らの将来の生活において、二人は婚姻において混ぜ合わされなければならない。それは、もしお互いが相手に真の心の愛情を与えるならば、本当に幸せな一致となることができる。

しかし、時間は、結婚から想像が覆っていたロマンスを剥ぎ取り、そのとき、「わたしたちは自分たちが思っていたほど互いを愛してはいない」という考えがサタンのほめめかしを通して、思いに入り込む隙を見出す。それを思いから追出しなさい。それをぐずぐずと考えていてはならない。互いに、自己を忘れて、あなたが大事にするとサタンが喜ぶ考えを心に抱くことを拒否しなさい。彼は、互いの愛情を疎遠にするために、あなたを疑い深くし、最も小さな機会を与えるようなすべての些細なことに嫉妬させる。……ロマンスが過ぎ去ったとき、各々感傷的に考えるのではなく、彼も彼女もどのようにして結婚生活を神がもたせることを喜ばれるようなものとすることができるかを考えなさい。

人生は神からの尊い賜物である。そして、それは、利己的な悲しみや、さらにはあからさまな無関心や嫌気によって無駄にされてはならない。夫と妻はあらゆることを一緒に話すようにしよう。互いへの初めのころの配慮を新たにし、自分の欠点を互いに認めよう。夫が妻の欠点を告白するのを引き受けたり、妻が夫の欠点を告白するのを引き受けたりしないように非常に注意しなさい。あなた方は互いに自分になれるものには何でもなろうと決心しなさい。そうすれば、婚姻の絆は最も望ましい結びつきとなる。（手紙 76, 1894 年）

あなたの家庭は天の象徴となることができる。（同上 10, 1894 年）

7月16日

花婿と花嫁への勧告

「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世記 2:24)

わが子たちよ(エレン・ホワイトが自分の息子であるエドソンとその妻とに、結婚後まもなくあてた手紙)、あなたがたは自分の心を互いに与えたのである。一致してそれらを完全に余すことなく神にささげなさい。あなたがたの結婚生活において互いに高めるように努力しなさい。品のない安っぽい話や行動に下がってしまつてはならない。あなたの聖なる信仰の高く高尚な原則を、あなたの毎日の会話と、最も個人的な生活の歩みにおいて示しなさい。いつでも互いの感情に心を配りやさしくありなさい。あなたがたのどちらも最初であっても、ふざけた、ひやかすような、冗談めいた非難をしてはならない。これらのことは危険である。それらは傷つける。その傷は隠されるかもしれないが、傷は現としてそこにあり、平和は犠牲にされ、幸福は危険にさらされる。……

わが息子よ、自分を守り、どんな場合にもわずかでさえも独断的で横柄な匂いがするふるまいをあらわすことがないようにしなさい。話す前に自分の言葉を見張ることにはその価値がある。あとでそれらを取り消したり、その印象を消したりするよりはその方が容易である。……いつも親切に話しなさい。ほかの人がいらいらしていると思うような語調をあなたの声に入れてはならない。あなたの声の調子でさえも調節しなさい。ただ愛と、親切と、温和とだけがあなたの表情とあなたの声に表現されるようにしなさい。日光を降り注ぐことをあなたの仕事としなさい。しかし、決して雲を残してはならない。エマはもしあなたがよく見張り、彼女に悲しい思いをさせたり、悩ませたり、あるいは、あなたの愛の純粋さを疑うような機会を与えたりしなければ、あなたにとってあなたの望みうるすべてとなる。あなたは、自分の幸福を自分で作ることもできるし、失うこともできる。あなたは自分の生活を神のみ言葉にあわせようと努力することによって、真実で、気高く、高尚になることができる。そして、互いの生涯の道のりをなだらかにすることができる。……

互いに譲り合いなさい。エドソン、時にはあなたの判断を譲りなさい。もしあなたの道があなたには正しく見えたとしても固執してはならない。あなたは良く譲り寛容で、親切で、心優しく、同情深く、勇敢で、いつも生活の小さな礼儀や、やさしい行動、やさしくて快活な励ましの言葉を生き生きと保っていなさい。そして、天の最上の祝福があなたがた二人の上に、わたしのいとしい子供たちの上にあるようにというのが、あなたがたの母の祈りなのである。(手紙 24, 1870 年)

結婚問題を神に携えていきなさい

「しかし、天地創造の初めから、『神は人を男と女とに造られた。それゆえに、人はその父母を離れ、彼の妻につくのである。』（マルコ 10:6, 7(英語訳))

あまりにもしばしば、結婚関係に、しかるべき考察もなく入ってしまう。だれ一人、確信なく結婚すべきでない。しかし、もし彼らがこの事柄に関して適切に考慮してこなかったならば、結婚した後になって、自分たちが品性において似ていないことを発見し、喜びの代わりに不幸を刈り取りがちになる。互いに自分たちの結婚はおろかであったという事実を互いの思いに吹き込まないようにしなさい。……悪はいつも、妻か夫が気の合う人物のように思えるだけかを見つけて、あえてこの信頼する人に結婚生活の秘密をささやいてしまうと増幅する。秘密を知らせてしまうという行為そのものが、夫と妻が神を最高に愛しているならば、まったく不要なことの事態が存在していることを確認しているのである。……

これらの困難があると思われる多くの場合、原因は想像である。……もし、夫と妻が自由に互いのことをキリストの精神で話すならば、困難は癒される。……もし、彼らが神を最高に愛するならば、彼らの心はこのお方の愛にとても満たされて、とても満足しているので、彼らは自分たちに対して愛情が行為に表されることを切望して消耗することはない。

多くの者が夫に対する妻の真の義務と妻に対する夫の真の義務を取り違えている。自己をすっかり夢中にさせて、サタンは……人の魂を捕えるために自分の網をその周りに引っばる用意が周到にできている。それは人間の想像によってあまりにももつれあっているの、人間の知恵では、彼の巧妙に織り込まれたわなの網目を解くことは不可能に見える。

しかし、人間の知恵にはできないことも、意志と思いと魂と力と全存在とを神に明け渡すことによって、神の知恵にできないことは何もない。このお方のみ摂理は、心を天に由来する絆のうちに結びつけることができる。しかし結果は、単にやさしいへつらいの言葉にある外面的な愛情のやりとりではない。天の織機は、地上のものよりもっと精細な、しかしもっと丈夫な縦糸と横糸で織る。材料は単に薄い織物ではなく、耐久力があり、試練のテストに耐える織物である。心は心に、本物の愛の黄金の鎖で固く結ばれる。(手紙 76, 1894 年)

7月18日

愛を生き生きと保つ

「妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。
夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。」(コロサイ 3:18, 19)

もし男が、また女も、愛を生き生きと保ち、自分たちが自分たちの好む連れ合いを得るのに必要だと感じている敬意、配慮そして感謝の親切な言葉、そして生活上の小さな礼儀を培い続けるならば、どれほどの問題や、悲哀と不幸の潮流が避けられることであろうか。もし、夫と妻が愛をはぐくむこれらの配慮を培い続けさえすれば、彼らは互いの交わりの中で幸せになり、自分たちの家族に聖化する感化力を及ぼすのである。彼らは自らのうちに小さな幸福の世界をもつ。そして新しい娯楽や新しい愛の対象を求めてこの世界の外に出ようとは望まない。

……

多くの女性は、自分を生涯の連れ合いとして選んだ自分の夫から、愛と親切の言葉や、当然自分たちに払われるべき普通の配慮や礼儀を切望する。……人生の幸福を築き上げるのはこうした小さな配慮や礼儀なのである。……

もし、心がわたしたちの家族の中で優しく保たれているならば、もし、互いの好みや意見に対して高尚で寛容な敬意が払われるならば、もし妻が自分の夫に対する親切さのうちに行動によって自分の愛を表現する機会を探しているならば、そして夫が同じ配慮とやさしい関心を妻に対して表しているならば、子供たちは、同じ精神にあずかるようになる。感化力は家族全体に行き渡り、そして悲慘の潮流は、家族の中で防がれるであろうに！……

自分たちの生涯の利害を一つにしているすべての夫婦は、互いの生涯を可能な限り幸福なものとするよう努力すべきである。わたしたちが高く評価するものを、わたしたちは守ろうと、そしてもし可能ならばもっと価値あるものにしようと努めるのである。男女は結婚の契約において、取引、生涯の投資をしたのであって、彼らは自分たちの短気な言葉、苛立ちを制御するよう、最善を尽くすべきであり、彼らが結婚以前よりさらに気をつけるべきである。なぜなら、今彼らの運命は夫と妻として生涯結び合わされており、結婚の前にあれほど熱烈に求め、高く評価してきた愛を新鮮に維持し、保つために払う骨折りの努力の量にちょうど比例して、互いの価値が図られるからである。(手紙 27, 1872 年)

愛の輪を広げる

「夫は妻にその分を果し、妻も同様に夫にその分を果すべきである。」(コリント第一 7:3)

夫と妻は、自分たちの間の愛のしるしのやり取りを、互いの交わりのプライバシーとしてとっておくことが自分たちの特権であり、義務として感じるべきである。なぜなら互いの愛を表現することはそれ自体正しいことではあるがそれは既婚者にも未婚者にも両者にとって害を及ぼすかもしれないからである。まったく違った思いや品性、また教育や訓練を持った人たちがいる。彼らも、互いに自分たちの愛情を自由に表現するように自ら教育してきた人たちと同様に献身的に健全に愛し合っている。そしてこの対照によって、これらのより控えめな人々が誤解されて、不利な立場におかれる危険性がある。妻が尊敬と敬意をもって自分の夫により頼むべきである一方、彼女は、健全で健康的な方法で、自分の生涯の伴侶として自分が選んだ男性に対する強い愛情と信頼を表すことができる。……

結婚生活において互いを幸せにするというのは、クリスチャンの高尚な特権であり、厳粛な義務である。しかしそこには、自己にまったく夢中になって、すべての愛情の富を自分たちの間で注ぎ尽くして、そのような生活に満足しきってしまうという実際の危険がある。こうしたことにはすべて利己心のにおいがする。

自分たちの愛と同情を自分たちの間だけで遮断してしまわずに、彼らは他人の益のために貢献するすべての機会をつかみ、神の御目には彼ら自身と同様尊く、このお方のひとり子の無限の犠牲によって買われた魂に対する汚れない聖化された愛のうちに豊かな愛情を分け与えるべきである。親切な言葉、同情のまなざし、愛情の表現は、一人で苦闘している多くの者にとって、渇いた魂にとっての一杯の冷たい水のようなものである。同情の言葉や親切な行為は、だれかの肩に重くのしかかっている重荷を持ち上げるのである。そして、勧告の言葉、訓告、愛によって聖化された心からの警告は、愛の言葉や愛情の表現の吐露と同様に重要なものである。わたしたちが接触する魂に対するすべての無私の親切の言葉や行為は、イエスが全人類家族に表してこられた愛の表現である。(手紙 76, 1894 年)

7月20日

両親へのメッセージ

「きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時もこれについて語らなければならない。」(申命記 6:6, 7)

両親たちは、自分たちの信仰において一致すべきである。それは自分たちの子供を真理の信条において育て上げる努力をするとき一致するためである。母親の上に特別な意味において、若い子供たちの思いを形成する働きが任されている。……仕事の事情によってしばしば父親は家庭に帰れず、子供を訓練する際に同じだけの分を担うことができないことがあるが、できるときはいつでも、彼はこの働きにおいて母親と一致すべきである。両親は一致して働き、自分の子供たちの心に義の原則を浸透させなさい。(ビュー・アンド・ヘラルド 1911 年 10 月 12 日)

すべての人が世とその感化力に接触する際に直面しなければならないテストに、わたしたちの子供たちを備えさせるための確固とした働きがあまりにもなされてこなかった。彼らは、神の戒めとイエス・キリストの証に忠誠を保つすべての者の前にある恐ろしい問題の際に、誘惑に抵抗し、正しい原則のために固く立つのに十分強い品性を形成するための助けを、彼らが受けるべきほどに受けてこなかった。

両親たちは若者が日ごとに直面しなければならない誘惑を理解する必要がある。それは、彼らがどのようにしてそれらに打ち勝つかを彼らに教えるためである。学校や世には、両親がそれに対して防御しなければならない感化力がある。神はわたしたちが、虚栄や娯楽や世の野心から目をそむけて、忍耐をもって福音の中に自分たちの前に置かれた走るべき行程を走る者たちの栄光と不死の報いにそれらを向けるようにと望んでおられる。このお方はわたしたちが自分の子供たちを、彼らをキリストから引き離すような感化力を避けるように教育することを望んでおられる。主はまもなく来られる。そしてわたしたちはこの厳粛な出来事に対して備えなければならない。……あなたの家庭における日毎の生活が神のみ言葉の生ける原則を表すようにしなさい。天のみ使いたちは、あなたが完全の標準に到達しようと努力し、あなたが自分の子供たちにどのようにして自分の生活を義の原則に調和させるかを教えようと努力するとき、協力してくださる。キリストと天の代理人たちはあなたの霊的な知覚力をよみがえらせ、あなたの活動を新たに、あなたに神の深い事柄を教えようと待っている。(同上)

学校である家庭

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言 22:6)

家庭は子供たちが高等学校のために訓練を受けるための学校となるべきである。父親と母親は「わたしは全き道に心をとめます。……わたしは直き心をもって、わが家のうちを歩みます」と決心するべきである(詩篇 101:2)。……両親たちはその子供たちの最初の教師である。そして、彼らが与える教訓によって、彼らは、自分の子供たちと同様に教育を受けているのである。両親が体と魂と精神とを神から与えられた自分たちの働きをするために献身するとき、主は彼らに尊い教訓をお教えになり、語るのに賢い言葉を与え、彼らの自制心を試されるときに忍耐と寛容を示すために助けてくださる。……

わたしたちは聖化された雰囲気の中に囲まれている家庭が必要である。改心していない家庭はサタンのもっとも強力な同盟者である。そのメンバーは神に逆らって働く。ある親は辛らつで非難めいていて、高圧的である。またほかの親は不注意で甘やかしすぎ、自分の子供たちが、ついにとても悪いことをするようになるまで不服従の行動をとらせてしまう。……このような親は神の改心させる力を感じる必要がある。怒りを許してしまうことによって、利己的な無関心によって、彼らは自分の子供たちをこの世にも来るべき世にもふさわしくないものにしてしまう。

……

わたしはこのことをわたしたちのうちにいる親に宛てて書いている。なぜなら、わたしは彼らが学び、そして自分の子供たちに、わたしたちが地上で天に入る前に学ばなければならない美しい教訓を教えることを非常に望んでいるからである。すべてのことにおいて、「このことは、キリストがご自分を愛する者のために用意しに行かれた住まいに、わたしの子供たちをふさわしいものとするためにどのように助けとなるであろうか」と自問しなさい。この働きが家庭学校でなされるべき程になされるとき、家庭は教会にとっても高尚で天使たちがとどまることを望むような無我を持ち込むようになる。……心は精錬され、純潔にされて、主イエスの住まいにふさわしいものとされるのである。

このお方の栄光への讃美を歌ったり、このお方を祈りのうちに捜し求めたり、このお方のみ言葉から読んだりしてキリストをあなたの子供たちの前にいつも置きなさい。そのとき彼らはこのお方を愛するようになり、そしてこのお方ととても緊密な一致に入るようになって、彼らはこのお方の聖霊の息吹を漂わせるようになる。彼らはキリストにあって互いに新しい関係を感じるようになる。(ビュー・アンド・ヘルド 1911年1月12日)

7月22日

キリストのために わたしたちの子供を訓練する

「あなたの子らはみな主に教えをうけ、あなたの子らは大いに栄える。」(イザヤ 54:13)

子供と青年たちは、自分の能力が彼らに与えられたのは、神の誉れと栄光のためであることを教えられなければならない。この目的のために彼らは、服従の教訓を学ばなければならない。なぜなら、自発的な服従の生涯によってのみ、彼らは、神の要求なざる奉仕を神におさげすることができるからである。……

真にキリストを愛する親は、子供たちを甘やかす愛ではなく、彼らのより高尚な益のために賢く働く愛のうちに、これに対する証を担う。これらの子供たちは、代価をもって買われた者たちである。キリストは、彼らを悪事からあがなうためにご自分の命を犠牲にしてくださった。キリストと御父が人類のために払ってくださった犠牲を感謝する親は、このお方たちと協力し、すべての聖化された精力と能力を自分の子供たちを救う働きに傾ける。子供たちをおもちゃのように扱う代わりに、両親は彼らをキリストの買われた者としてみなし、そして彼らに神の子供とならなければならないことを教えるのである。彼らに悪い気質や利己的な願いにふけることを許す代わりに、彼らは子供たちに自己抑制の教訓を教える。

両親と子供が、自分たちのための神の理想に到達する努力において協力するとき、力と祝福が彼らの生活にもたらされる。そして両親が自分たちの労力の実として、自分の子供たちが真理の愛のうちに成長し、自分たちのための神のご目的の満ち満ちた高さに到達しようと努力しているのを見ると、喜びと満足が彼らの心を満たすのである。(ビュー・アノド・ヘルド 1911 年 10 月 5 日)

このお方は、わたしたちの民の家庭から、若者たちの大きな群れの集められるのをご覧になりたいと望んでおられる。彼らは自分たちの家庭での信心深い感化があったために、自分たちの心をご自分に明け渡し、このお方に自分たちの生涯の最高の奉仕をささげるために出て行くのである。家庭での信心深い指示、朝夕の礼拝の感化力、神を愛し畏れる両親たちの一貫した模範によって導かれ訓練されて、彼らは、自分たちの教師であり指導者として神に服従することを学んだので、彼らはこのお方に受け入れられる奉仕をささげる準備ができているのである。……このような若者は、世にキリストの恵みと力をあらわす。……

あなたはほかの家族が、神から与えられた彼らのタラントを神の栄光のために用いるように助けたいであろうか。そうであれば、あなた自身の生活において、キリストのみかたちへの一致を表しなさい。(同上)

天の学校のために備える

「われらのむすこたちはその若い時、よく育った草木のようです。われらの娘たちは宮の建物のために刻まれたすみの柱のようです。」(詩篇 144:12)

親は家庭で自分たちの前に横たわっている偉大な伝道地を忘れないようにしよう。母親は自分に任された子供たちのうちに神からの神聖な責任をもっている。神は「この息子、娘を育てなさい。そして、わたしのために訓練しなさい。彼らが主の宮殿で永遠に輝くことができるように、宮のために磨き上げなさい」と仰せになる。(レブ・アト・ヘラド 1905 年 11 月 23 日)

家族の一人一人が、わたしはクリスチャンになる。なぜなら、この下にある学校で、わたしは高等学年に、すなわち上にある学校に進級する許可を与える品性を築かなければならないからである。わたしは、人が自分にして欲しいと望むことをほかの人にしなければならぬと決心しよう。

家庭生活をできる限り天国に近いものとしよう。家族の一人一人は自分たちが家庭の祭壇の周りに集まるとき、神のみ働きにおいて責任のある地位にある人々のために祈ることを忘れないようにしよう。わたしたちの治療院の医者たち、福音の牧師たち、わたしたちの印刷所や学校で責任を負っている人たちはわたしたちの祈りを必要としている。彼らは誘惑され、試みられている。あなたが神に彼らを祝福してくださるように嘆願するとき、このお方の恵みによってあなた自身の心が抑制され、やわらげられる。わたしたちは、最後の時代の危険の中に生きている。そして、わたしたちは、すべての汚れから自分たちを清め、キリストの義の衣を着なければならぬ。(同上 1904 年 1 月 28 日)

わたしの兄弟姉妹、わたしはあなたがたにキリストが雲に乗ってこられるときのために準備するように強く勧める。毎日、世の愛着をあなたの心から追い出ささい。経験によって、キリストとの交友を持つということがどういふことなのかを理解しなさい。裁きのために準備しなさい。それはキリストが来られて、信じるすべての者たちにあがめられるとき、あなたがこのお方に平安のうちにお会いすることができるためである。その日には、あがなわれた者たちは、御父と御子の栄光のうちに輝き出る。御使たちは、金の立琴をかなで、王とこのお方の勝利の戦利品たち、すなわち小羊の血によって洗われ、白くされた者たちを歓迎する。勝利の歌が鳴り渡り、全天を満たす。キリストが勝利されたのだ。このお方は、ご自分のあがなわれた者たち、ご自分の苦しみと犠牲の使命が無駄ではなかったという証人たちを従えて天の宮廷に入られるのである。(同上 1905 年 11 月 23 日)

7月24日

信心深い両親の感化力

「ただあなたはみずから慎み、またあなた自身をよく守りなさい。そして目に見たことを忘れず、生きながらえている間、それらの事をあなたの心から離してはならない。またそれらのことを、あなたの子孫に知らせなければならない。」(申命記 4:9)

まもなくキリストが再臨なさることを信じると公言するすべての親に、準備という厳粛な働きが与えられている。それは、彼らと彼らの子供たちが主の来られるときに、お会いする準備ができていたためである。神は親が全心をもってこのお方のために自分の立場を引き受けることを望んでおられる。それはこのお方が彼らになすようにとお与えになった働きがそらされることなく、わたしたちの子供や青年たちが自分たちに関する神の御心をはっきりと理解することができるためである。彼らは悪に抵抗し、義を選ぶことを学ばなければならない。罪に背を向けて、神に自分たちの生涯の最高の奉仕をささげる準備のできた神の忠実な僕とならなければならない。

自分の子供たちに信心深い模範の感化を与えることが、どれほど重要であるかを悟っている親はほとんどいない。しかし、これは教訓よりはるかに強力なのである。彼らを正しい道に訓練する際、ほかのどのような手段も、これほど効果的ではない。子供や青年たちが罪を克服し、クリスチャン品性を完成させるのに成功するためには、彼らに正しいことを行う真の写しがなくてはならない。彼らはこの写しを自分の両親の生活の中に見出すべきである。もし、彼らが神の都に入るとすれば、……だれかが彼らに道を教えなければならない。自分の子供たちの前で信心深く、一貫した生涯を生きることによって、親は働きを彼らの前にはっきりと明白にすることができる。

親が自分の子供たちにとって、ご自分のみ言葉に提示されている原則のはっきりとした形となることが神の願いである。……子供たちの足を狭い道にとどめておくためには、忠実な努力と耐えざる祈りが要求されているが、子供と青年たちが神を愛し、神に仕えるように訓練することは可能である。……義の原則を繰り返し、規則に規則、教訓に教訓、そこにも少し、ここにも少しと、心の願いと傾向とが神の思いと御心に調和するまで説き聞かせることは可能である。

父親と母親が自分たちにまかされた責任を悟り、このなおざりにされてきた働きのために神の聖霊が嘆願するのに答えるとき、民の家庭には、天使たちを喜ばせる変化が見られるようになる。(ビュー・アンド・ワルド 1911年10月12日)

家庭の祭壇

「そこに彼は主のために祭壇を築いて、主の名を呼んだ。」(創世記 12:8)

神の友アブラハムはわたしたちに価値ある模範を残した。彼の生涯は祈りと謙遜な服従の生涯であった。そして、彼は世の光であった。彼が幕屋を張ったところはどこでも、そのそばに自分の祭壇を築き、自分の家族の一人一人を朝夕の犠牲のたびに呼び集めた。……クリスチャン家庭から同様な光が輝き出るべきである。愛が行動に表されるべきである。それが家族全体の交わりにあふれ出て、それ自体が思いやりのある親切や、やさしい無私の礼儀正しさなどに表されるべきである。これらの原則が実行されている家庭がある。そこは、神が礼拝され、最も真実な愛が統治している家庭である。これらの家庭から朝夕の祈りが神のみ前に芳しい香りとして立ち上り、そしてこのお方の恵みと祝福が朝露のように嘆願者の上に下るのである。

わたしたちはもっと宗教を持たなければならない。わたしたちは熱心な祈りから生まれる力と恵みが必要である。この恵みの資産は霊的な筋肉を得るために勤勉に用いられるべきである。祈りは神をわたしたちのところに呼び下ろすのではなく、わたしたちをこのお方のところへ引き上げる。それはわたしたちにますます自分たちの大きな必要を悟らせ、こうしてわたしたちが神に対して負っていることと、わたしたちがこのお方に依存していることを悟るのである。祈りはわたしたち自身の無価値さと自分たちの判断の弱さを感じるように導く。神は熱心な祈りをご自分のもつとも豊かな祝福を与える条件となさった。……

これは毎日のことである。毎朝、自分と自分の家族をその日のために神に献身しなさい。何ヶ月や何年も先のことを勘定してはならない。なぜなら、それらはあなたのものではないからである。短い一日があなたに与えられている。そしてその一日にあなたとあなたの家族のためにあたかも人生最後の日であるかのように働きなさい。自分のすべての計画を神にゆだねなさい。実行するにしても中止するにしても、このお方のみ摂理が示すとおりにするのである。このようにして、あなたは毎日に自分自身の生涯をその計画と目的とともに神の御手にゆだねることができる。このお方のご計画を、それがどれほどあなた自身の予定を妨げ、どれほど大事にしてきた事業をあきらめなければならなかったとしても、自分自身の計画の代わりに受け入れるのである。こうして、生涯はますます神の模範にしたがって形作られるようになる。そして、「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いを、キリスト・イエスにあつて守るのであるう」。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1884年8月7日)

7月26日

子供と青年のための型

「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」
(ルカ 2:52)

地上におられる間、キリストは貧しい田舎の家庭で生活された。このお方はご自分の親が提供できる最上の服をまとわれたが、それらは、貧しい田舎のつましい服であった。このお方はナザレのでこぼこ道を歩まれ、そしてその丘や山の坂道を登られた。このお方の家庭では、このお方はたえず働いておられた。そして生涯が有益な行いで満ちていたという記録を残された。キリストがご自分の生涯を大きくて裕福な人々の間で過ごされたなら、骨折る人の世界は、主が彼らに持たせようと意図された激励を奪われていたことであろう。

しかし、キリストはご自分の働きが日毎の糧のために労する大工のつましい仕事に従事することから始められねばならないことをご存知であった。このお方は大工の仕事を学ばれた。それはこのお方が、神の栄光だけに目を留めて働くすべての人にとって、正直な労働が誉ある高尚なものであることを印象付けるためであった。そして御使たちがこのお方に付き添っていた。なぜなら、事実キリストは大工の作業台で労しておられるときにも、群衆のために奇跡を働いておられたときと同様に、このお方の御父の働きをなさっておられたからである。このお方は最高の力、天の主権者からの任務と権威を有しておられた。

キリストは貧困に下ってこられた。それはわたしたちが、日毎の生活の中でどれほど神と近く歩めるかをこのお方がお教えになるためであった。……このお方は骨折り仕事に携われ、家族の必要を支えるためにご自分の分を担われ、疲労を知りながら、なお短気を表されなかった。このお方の精神は決して天の事柄のための時間も考えもとれなくなるほど、世のわずらいでいっぱいになってしまうことはなかった。このお方はしばしば歌をもって天と交わられた。ナザレの人々はしばしば、このお方のみ声が祈りと感謝のうちに神へと上るのを聞いた。……かぐわしい感化がこのお方の周りにいる人々へと放散した。そして彼らは祝福された。このお方の讃美は悪天使たちを追い出し、その場所を芳しい香りで満たすようであった。……

このお方の命は神の命と品性に調和していた。このお方の幼少期、成人期は、実際の生涯の各段階を高尚にし、聖化していた。……このお方はあらゆるところにおいて完全な型であられた。……このお方は幼児期、子供時代、そして成人期の体験を、ご自分のご品性の上に染みをつけることなく過ごされた。(ビュー・アンド・ベールド 1899年10月24日)

神の特別な保護の対象である 子供たち

「わたしはあなたと争う者と争い、あなたの子らを救うからである。」(イザヤ 49:25)

詩篇 101 篇に記されているダビデの誓いが家庭における感化力を守る責任が負わされているすべての人の誓いとなるべきである。ダビデは、「わたしは全き道に心をとめます。あなたはいつ、わたしに来られるでしょうか。わたしは直き心をもって、わが家のうちを歩みます。わたしは目の前に卑しい事を置きません。わたしはそむく者の行いを憎みます。それはわたしに付きまといません」と宣言した(詩篇 101:2, 3)。(レビュー・アンド・ヘルド 1911 年)

魂の敵は、わたしたちの青年たちの思いを、神を信じる固い信仰から世の偶像礼拝的な習慣へとそらすための多くのことを考案する。いにしへのイスラエルに与えられた警告を注意深く研究しなさい。思想を損ない、判断を混乱させるためのサタンの努力は止むことがないから、わたしたちは用心していなければならない。わたしたちは神の特別な民として、このお方への忠誠を維持するように注意していなければならない。……

わたしたちは善を生み出さないすべての感化を家庭から閉め出しておくために努力すべきである。このことにおいて、ある親には学ぶべきことが多くある。雑誌や小説の物語を読む自由があると感じている者たちにわたしは言う。あなたは種をまいているのであり、その収穫はあなたが集めたくないようなものである。そのような読み物から得る霊的な力はない。それはむしろ、み言葉の純潔な真理に対する愛を減ぼしてしまう。小説や物語の雑誌という手段を通して、サタンは神のみ言葉を勤勉に研究すべき思いに非現実的で不真面目な思想で満たすために働いているのである。こうして、彼は人生の厳粛な問題が要求している実に莫大な時間と勢力と自己規制を奪っているのである。

神のみ言葉を綿密に研究するために青年たちを教えようではないか。魂に受け入れられると、それは誘惑に対して力強い防壁であることがわかる。詩篇記者は次のように宣言している。「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました」「あなたのくちびるの言葉によって、わたしは不法な者の道を避けました」(詩篇 119:11; 17:4)。(同上 10月5日)

もし、神のみ言葉の勧告に忠実に従うならば、キリストの救う恵みがわたしたちの青年たちにもたらされる。なぜなら神を愛し、従うように訓練される子供たち、そして自分をこのお方のみ言葉の形作る力に明け渡す子供たちは、神の特別な保護と祝福の対象だからである。(同上)

7月28日

子供たちへのメッセージ

「子たる者よ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことである。『あなたの父と母とを敬え』。これが第一の戒めであつて、次の約束がそれについている」(エペソ 6:1, 2)

子供たちは主にあつて自分の両親に従いなさい、よく助け、従順でありなさい、という使徒によって訓戒されるべきである。真に神を愛する者たちは自分自身の方法を求めて奮闘し、こうして自分自身や他人に不幸をもたらしたりしない。彼らは品性にキリストを表すために奮闘する。罪に対して奮闘する青年、キリストの再臨を信じて、待ち、見張る青年、親の権威に従順な青年、主イエスを愛する青年がイエスの再臨を愛し、このお方に平安のうちに会いする者たちの中にと考えることは、何と尊いことであろう。

これらの人々は神の御座の前にしみもしわもなく立ちこのお方の恩寵を永遠に享受する。彼らは美しい品性を形作ってきた。彼らは自分の言葉を守ってきた。彼らは偽って語ってこなかった。彼らは何一つ悪いことをしないように自分の行動を守ってきた、そして彼らは永遠の命をもって冠されたのである。(原稿 67, 1909 年)

親が「わたしは自分の子供たちが主を愛し、このお方のみ旨を行い、そしてこのお方に栄光を帰すように教えようとしてきました」と言つて、自分たちと一緒に子供たちを神の都の門のところへ連れて行くことは親の特権である。そのような人々に、門は開かれ、そして親と子供は入るのである。……

神の都に入ることのできる家族はすべて、自分たちの地上の家庭において、キリストが自分たちに課してくださった責任を果たすことによって、忠実な働き人であった者たちである。そこで天の教師であられるキリストはご自分の民を命の木のところへ導き、そして彼らにこの地上の生涯では理解できなかった真理を説明してくださる。将来の生涯において、このお方の民は、さらに高い教育をその完全さのうちに得るのである。

神の都に入る者たちは自分の額に金の冠を置かれる。わたしたちのうち、だれ一人受け損なう人がない喜びの光景である。わたしたちは自分の冠をイエスの足元に投げ出し、そして何度も何度もこのお方に栄光を帰し、このお方の聖なる御名をほめ讃えるのである。天使たちが勝利の歌に加わり一つになる。自分たちの金の立琴を奏でて、彼らは小羊にささげる豊かな調べと歌で全天を満たすのである。(ビュー・アノド・ヘルド 1909 年 10 月 28 日)

神の都における永遠の命は、家庭生活における服従の報いである。(同上)

青年へのメッセージ

「若者たちよ。あなたがたに書きおくたのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。」
(ヨハネ第一 2:14)

子供と青年たちはその清新なタラント、エネルギー、そして勇氣、また彼らの受け入れの早さとともに、神に愛される者であり、このお方はみ使いたちとの調和に入りたいと望んでおられる。……

わたしたちの子供たちは、かつてもそうであったように、岐路に立っている。いたるところに自己追求と自己放縦への世の誘惑が、主のあがなわれた者たちのために拓かれた道から、彼らを誘い出そうと呼んでいる。彼らの生涯が祝福となるかのろいとなるかは、彼らの選択にかかっている。……彼らはキリストに属するものである。彼らはこのお方の血によって買われたものであり、このお方の愛の当然の権利である。彼らはこのお方が彼らをその御力で守ってくださるから生きているのである。彼らの時間、彼らの強さ、彼らの能力はこのお方のものであり、発達され、訓練され、このお方のため用いられるべきである。……

若い男性、若い女性の方々、知識のたくわえを集めなさい。……常に高く、さらに高く到達しなさい。今価値があるのは、常に永遠の現実を視野に入れて、思いとからだの力を大いに働かせる能力である。主を最も熱心に求めなさい。それはあなたがもっともっと精錬し、もっと靈的に養われるためである。こうして、あなたはだれでも持つことのできるまさに最高の卒業証書、神の保証を受けることができる。

あなたのタラントがどんなに大きくても、またどんなに小さくても、あなたの持っているものは、ゆだねられているに過ぎないことを覚えていなさい。こうして、神はあなたを試しておられるのである。あなたが真実なものであることを証明する機会を与えておられるのである。……あなたの体と思いと魂の力はこのお方に属するものであり、そしてこれらの力はこのお方のために用いられるべきである。あなたの時間、あなたの感化、あなたの能力、あなたの技能、すべてはすべてを与えてくださったお方に説明する責任を果たさなければならない。……

わたしたちの青年たちが正しく訓練されたときに装備されるこのような働き人の軍隊があれば、十字架にかかれ、よみがえられ、まもなく来られる救い主のメッセージは、どれほど速やかに全世界に伝えられることであろうか！どれほど速やかに終わり、すなわち苦しみと悲しみと罪の終わりが来ることであろうか！どれほど速やかに、わたしたちの子供たちは、罪と痛みを宿すこの地上に持っている所有物に代わって、「正しい者は国を継ぎ、とこしえにその中に住むことができる」嗣業を受け継ぐことができるであろう（詩篇 37:29）。(レビュー・アンド・ヘラルド 1912 年 5 月 16 日)

7月30日

サタンに対して用心する

「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」(テモテ第一 4:12)

主の側に立つことを決心し、そして理解して自分の心を決める人々は、よい働きを始めている。しかし、働きは始まったばかりである。彼らは軍隊に加わったばかりである。戦いと戦闘は彼らの前にある。(原稿 9, 1863 年)

わたしは、青年たちの誘惑に関して示されてきた。サタンは、いつも彼らの後を付けねらい、彼らの未熟な足を迷わそうと試みている。そして青年たちは彼の策略に無知なようである。彼らは悪魔のわなに対して、用心すべきほどに自ら警戒していない。この敵はいつも見張っていて、つねに警戒しており、いつでも青年が自分自身の心を見張るのをやめ、自らを守ることをやめるとき、そのときこそサタンが彼らを支配し、自分のわざを彼らに対して用いるのである。密室の祈りはクリスチャンの力である。彼はたえず見張り、熱心に祈らなければ、主にあって生き、繁栄することはできない。……

イエスがわたしたちの愛情の対象であるべきである。しかしサタンは、天の事柄から愛情を引き離し、それらをわたしたちの愛着や愛情に値しないものに置かせようとしている。……世の大部分の最高の愛情はつまらない事柄に与えられている。

青年の思いは抑制されないままに放って置かれ、自分たちの墮落した性質にあった水路に向けられている。彼らは自分たちの油断のない警戒を解き、自分たちの愛情を互いに与え合って、特別な友人、特別な親友を持ち、そしてこれらの友人たちがともに集まると、イエスは彼らの間でそれほど名がのぼらなくなってしまう。彼らの会話はクリスチャン経験や、キリストや、天のことについてではなく、軽薄な事柄についてである。……彼らは悪魔の策略をよく知らず、十二歳、十四歳、十五歳、十六歳ともなると自分たちが若い男女であり、自分たちで自分の道を選び、適切に用心して行動できると考える。(原稿 10, 1863 年)

イエスは青年を愛される。このお方は彼らを救うために死なれた。……ああ、もし彼らがただ神がどれほど彼らを愛しておられるかを知ることさえできるなら！このお方は彼らが善良で、純潔で、高潔で、親切で、礼儀正しい者となることを望んでおられる。それは、彼らが純潔で聖なる御使たちと永遠にわたって生きることができするためである。(原稿 78, 1886 年)

「わたしの家族は 主にお会いする準備ができているだろうか」

「こうして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである。」(ペテロ第二 1:11)

親はペテロ第二の初めの章を研究しよう。ここに聖書の真理の高尚な卓越さが表されている。それはクリスチャンの経験が堅実な成長であるべきこと、品性に強さをもたらし、魂を永遠の命にふさわしいものとする恵みと徳のうちにある継続的な進歩であるべきことを教える。……

キリストの恵みのうちに一緒に成長することは親と子の特権である。み言葉に示されている条件に応じる人々は自分たちの霊的な必要と勝利するための力の満ち満ちた備えを見出すのである。……主は親が、自分の子供たちをご自分のために訓練するにあたって、熱心で一致した努力をすることを期待しておられる。家庭において、彼らは聖霊の恵みを培い、彼らのすべての道で、聖霊の聖化を通してわたしたちをあらゆるよいわざに完全なものとしてくださると約束なさったお方を認めるべきである。……

世の啓発と救いのために担うべきメッセージを持っている民は真理に改心していない自分たち自身の家族のメンバーのためにほとんど、あるいはまったく努力しないのであろうか。親は自分の思いが非常に重要な「わたしの家族は主にお会いする準備ができているだろうか」という問いをなおざりにして、取るに足らない事柄に没頭してしまうことを許すのであろうか。彼らはこの終わりの時代の現代の真理である偉大な真理に同意し、このメッセージが他の人々や地に伝えられるのを見ることに関心を覚えながらその一方で自分たちの最も尊い所有である自分の子供たちが、自分たちの危険に対して警告もなされず、将来に対する準備もしないままに出て行くのを許すのであろうか。神のみ言葉から、また聖霊の証人を通して、自分の義務について はっきりとした光を持っている人々が、自分の子供たちを救うために断固とした努力をすることなく、何年もやり過ぎてしまうのであろうか。

キリストは人間の協力を待っておられる。それは、このお方がわたしたちの子供たちと青年たちの心に印象付けることができるためである。熱烈な願いをもって、天の存在者たちは、親がもし、自分と自分の子供たちが来るべき争闘において神に忠実であり、また神の都の門を通して入りたいならば、不可欠である準備をするのを見たいと切望している。(レビュー・アソド・ヘラルド 1911年10月12日)

キリストと律法（Ⅰ）



完全な律法

神の律法は、聖書に提示されているように、その要求において広い。すべての原則は聖にして、正しく、善なるものである。律法は、人間を神への義務の下へ置く。それは思想と感情に及ぶ。そしてそれによってその要求を犯してきたことを感じるすべての人のうちに罪の自覚を生じさせる。もし律法が外面のふるまいにだけ及ぶものであれば、人は自分の悪い考え、願望、意図において有罪とはならないであろう。しかし、律法は魂そのものが純潔で、思いが聖なるものであることを要求する。こうして、思想と感情が、愛と義の標準に一致することができるためである。

キリストはご自分の教えの中で、シナイ山で語られた律法の諸原則がどれほど遠くに及ぶかを示された。このお方は諸原則がとこしえに義の偉大な標準でありつづける律法、すなわち審判を行う者がその席に着き、かずかずの書き物が開かれる日に、すべての人が裁かれる標準の生きた適用例を示された。このお方はあらゆる義を成就するために来られた。そして人類の頭として、人に神のご要求の一つ一つの詳細にこたえながら、同じ働きができることを示しに来られたのである。人間の代理人に供給される恵みの測りを通して、だれひとり天を失う必要はない。品性の完全は、そのために奮闘するすべての人が手に入れることのできるものである。これが福音の新しい契約の基礎そのものである。エホバの律法は木であり、福音はかぐわしい花であり、その木が結ぶ実である。

神の御霊が人に律法の完全な意味をあらわされるとき、その人の心の中に変化が生じる。預言者ナタンがダビデに彼の真の状態を忠実に描写したことは、ダビデに自分自身の罪を知らせ、彼がそれらの罪を捨てるのを助けた。彼は勸

告を柔和に受け入れ、神のみ前に自らへりくだった。彼は次のように言っている。「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。主のさとしは正しくて、心を喜ばせ、主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする。主を恐れる道は清らかで、とこしえに絶えることがなく、主のさばきは真実であって、ことごとく正しい。これらは金よりも、多くの純金よりも慕わしく、また蜜よりも、蜂の巣のしたたりよりも甘い。あなたのしもべは、これらによって戒めをうける。これらを守れば、大いなる報いがある。だれが自分のあやまちを知ることができましょうか。どうか、わたしを隠れたとがから解き放ってください。また、あなたのしもべを引きとめて、故意の罪を犯させず、これに支配されることのないようにしてください。そうすれば、わたしはあやまちのない者となって、大いなるとがを免れることができるでしょう。わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いがあなたの前に喜ばれますように」（詩篇 19:7-14）。

パウロの律法の評価

パウロの律法についての証は次である、「それでは、わたしたちは、なんと言おうか。律法は罪なのか〔罪は人の中にあり、律法の中にはない〕。断じてそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったであろう。すなわち、もし律法が『むさぼるな』と言わなかったら、わたしはむさぼりなるものを知らなかったであろう。しかるに、罪は戒めによって機会を捕え、わたしの内に働いて、あらゆるむさぼりを起させた。すなわち、律法がなかったら、罪は死んでいるのである。わたしはかつては、律法なしに生きていたが、戒めが来るに及んで、罪は生き返り、わたしは死んだ。そして、いのちに導くべき戒めそのものが、かえってわたしを死に導いて行くことがわかった。なぜなら、罪は戒めによって機会を捕え、わたしを欺き、戒めによってわたしを殺したからである」（ローマ 7:7-11）。

罪が殺したのは律法ではなく、パウロのうちにあった肉の思いを殺したのであった。彼は次のように宣言している。「しかし今は、わたしたちをつないでいたものに対して死んだので、わたしたちは律法から解放され、その結果、古い文字によってではなく、新しい霊によって仕えているのである」（ローマ 7:6）。「では、善なるものが、わたしにとって死となったのか。断じてそうではない。それはむしろ、

罪の罪たることが現れるための、罪のしわざである。すなわち、罪は、戒めによって、はなはだしく悪性なものとなるために、善なるものによってわたしを死に至らせたのである」(ローマ 7:13)。「このようなわけで、律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである」(ローマ 7:12)。

パウロは自分の聴衆に破られた律法に注意を向けさせ、彼らにどこで有罪かを示している。彼は自分の学生たちを指導する養育掛のように彼らに教え、彼らに神への忠誠に戻る道を示している。

律法の違反には、安全も休息も義認もない。人が罪のうちにい続ける間は、人は神のみ前に無実であることも、またキリストの功績を通してこのお方との平和のうちに立つことも望めない。彼は違反をやめて、忠実で真実でなければならない。罪人が偉大な道德を調べる鏡をのぞきこむとき、自分の品性の欠点を認める。自分自身をありのままに、しみがあ、り、汚れ、罪の宣告を受けているのを見る。しかし、彼は律法が、どのような方法であれ、彼の有罪を取り除いたり、違反者を許したりすることはできないことを知る。彼はその先にへ行かなければならない。律法は人をキリストへ連れていく養育掛にすぎない。彼は自分の罪を負って下さる救い主を見なければならない。そしてキリストがカルバリーの十字架にかかって全世界の罪の重さの下に死んでいかれるのが彼にあらわされるとき、聖霊は自分の違反を悔い改めるすべての人に対する神の態度を彼に示してくださる。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)。

わたしたちは、個人個人、かつてなかったほど「主はこう言われる」に注意を払わなければならない。神に不忠実な者がいる。このお方の安息日を汚す者、み言葉のもっとも明白な意味に対してつまらない異議を唱えようとする者、聖書をその真の意味からねじ曲げる者、それと同時に、聖書に対する自分の不従順を調和させようと必死の努力をする者がいる。しかし神のみ言葉は、キリストの時代に律法学者やパリサイ人に有罪を宣告したように、そのような行為が罪であることを宣告する。わたしたちは何が真理であるかを知る必要がある。わたしたちはパリサイ人がしたようにするのであろうか？世がかつて知った中で最も偉大な教師から向きを変えて人の伝統、格言、言うことに向かうのであろうか。

律法に違反する結果

思いに抱く権利がない多くの信条がある。アダムはサタンの偽り、すなわち神のご品性に対する狡猾なほのめかしを信じた。「主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」(創世記 2:16, 17)。サタンがエバを誘惑したとき、次のように言った『園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか』。女はへびに言った、『わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、ただ園の中央にある木の实については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました』。へびは女に言った、『あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです』。(創世記 3:1-5)。

神がわたしたちの最初の両親に持つことを望まれなかった知識は、罪の知識であった。そして彼らがサタンの主張を受け入れたとき、それは偽りであったが、不従順と不法がわたしたちの世に入ってきた。この神の表明されたご命令に対する不従順、このサタンの偽りを信じるのが、世に苦悩の洪水の門を開いたのである。サタンはエデンの園で始めた働きを継続してきた。彼は、人間がサタンの主張を受け入れ、神を受け付けることがないように、油断なく働いてきた。サタンは人の中に神のみかたちを回復し、人の魂のうちに神に似た姿を刻印するためのキリストの努力に反対して働いてきた。

偽りを信じるのが、パウロを親切でやさしく同情深い人にしたのではなかった。彼は宗教的な狂信者で、イエスに関する真理に反してはなはだしく怒っていた。彼は国中を行き巡り、男女を引きずり出し、彼らを牢獄へ入れた。このことについて彼は次のように述べている。「わたしはキリキヤのタルソで生れたユダヤ人であるが、この都で育てられ、ガマリエルのみもとで先祖伝来の律法について、きびしい薫陶を受け、今日の皆さんと同じく神に対して熱心な者であった。そして、この道を迫害し、男であれ女であれ、縛りあげて獄に投じ、彼らを死に至らせた」(使徒行伝 22:3, 4)。

人類家族は御父の律法に自分たちが違反したがゆえに問題のうちにいる。しかし、神は罪のための治療法を示すまでは、罪人を置き去りにはなさない。神のひとり子はわたしたちが生きていくことができるように死なれた。主は、わたしたちがキリストを受け入れこのお方を信じて生きることを条件に、わたしたちを代表し

て、この犠牲をわたしたちの身代わりまた保証人として受け入れて下さった。

罪人は信仰のうちにキリストのもとへ来て、このお方の功績をつかみ、罪を負うお方の上に自分の罪を置き、そしてこのお方の許しを受けなければならない。キリストがこの世に来られたのは、このみ事業のためであった。こうしてキリストの義が悔い改め、信じる罪人に着せられる。彼は王家の一員となり、天の王の子、神の相続人、キリストと共に相続人となるのである。(レクテッド・メッセージ 1 巻 211-213)

今日神さまのみ言葉はほとんど注意を払われていません。人々はこの警告を笑います。群衆は「すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない」と言います (同 3:4)。

その時、滅びが来ます。人が軽蔑して「主の再臨の約束はどうなったのか？」と尋ねている間、そのしるしは成就しています。

「人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、……突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない」 (テサロニケ第一 5:3)。

キリストは「もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない」と宣言しておられます (黙示録 3:3)。

今日人々は食い、飲み、めとりとつぎなどをすることに夢中になっています。商人はまだ売買しています。人々は最高の地位を争っています。娯楽愛好家は劇場、競馬、ギャンブルの地獄に群がっています。どこにでも興奮が広がっています。しかし恩恵期間の日はすぐに終わり、あわれみの扉は永遠に閉ざされます。

わたしたちのために救い主の警告の言葉が語られています。

「あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい」 (ルカ 21:34)。

「これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」 (同 36)。

キャベツと厚揚げのホットサンド

■材料 (2 人分)

キャベツ千切り	2-3 枚分
厚揚げ	一枚
トマトピューレ	1 カップ
醤油	大さじ 1
オリゴ糖	大さじ 1
にんにく (みじん切り)	1 かけ
顆粒昆布だし	小さじ 1
食パン	4 枚
オリーブ油	適量

■作り方

1. トマトソース、醤油、オリゴ糖、にんにく、顆粒昆布だしを混ぜます。
2. 厚揚げに熱湯をかけて、二枚にうすく切ります。
3. キャベツをさっと炒めます。
4. フライパンにオリーブ油をしいて弱火で熱し、その上にパン、ソース、厚揚げ、ソース、キャベツ、ソース、もう一枚のパンの順番にのせ、お皿で押します。
5. 片面が焼けたら、ひっくり返して、もう片面も焼けたら、出来上がりです。

最近よく見かける豆乳チーズを入れてもおいしいです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第64話

さばきの日(II)

ノアの時代の人々は神さまからの賜物を悪用しました。彼らの飲食は、大食いと泥酔へと導きました。

彼は神さまを忘れ、すべての卑劣で忌まわしい行為に自分たちの身を任せました。

「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた」(創世記 6:5)。当時の人々が滅ぼされたのは彼らの邪悪さのためでした。

今日人々は同じことをしています。暴飲暴食、放縱、手に負えない熱情、悪い慣例は、この地上を邪悪さで満たしています。

ノアの時代に、世界は水によって滅ぼされました。神さまのみ言葉は、それが今や火によって滅ぼされることを教えています。

「神の言によって、水がもとになり、また、水によって成ったのであるが、……その時の世界は、御言により水でおおわれて滅んでしまった。しかし、

今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである」(ペテロ第二 3:5-7)。

洪水前の人々は神さまの警告をあざ笑いました。彼らはノアは狂信的で人騒がせな人だと呼びました。偉大で学識のある人は彼が警告したような水の洪水は知られていない、そしてそれは決して来ることはないと言っていました。



(45 ページに続く)